

気候情報

2013年10月の日本の天候

- 北日本から西日本にかけて顕著な高温
- 全国的に多雨・寡照
- 台風第26号で東日本太平洋側では大雨

10月の天気概況

日本の東海上の太平洋高気圧の勢力が平年より強く、また偏西風も平年に比べて北寄りに流れたため、北日本から西日本にかけて上旬に記録的な高温となった。これらの地域の月平均気温はかなり高く、特に東日本の月平均気温は+1.9℃で、1946年の統計開始以来、1998年と並んで1位タイの高温となった。一方、台風の接近数が多かったこと（10月に接近した台風の数と1951年の統計開始以来の順位は、日本への接近数6個で1位、沖縄・奄美への接近数4個で1位、本土（北海道、本州、四国、九州）への接近数3個で2位タイ）や秋雨前線の影響で、全国的に降水量が多く、日照時間は少なかった。北日本では降水量がかなり多く、日照時間はかなり少なかった。東日本と西日本日本海側では、降水量がかなり多かった。また、台風第26号が発達しながら日本の南海上に北上し、大型で強い勢力のまま16日に暴風域を伴って関東地方沿岸に接近した影響で、住家被害、土砂災害、河川の氾濫等が発生した。特に東京都大島町では、16日の朝までの24時間に、平年の10月の降水量の2.5倍に相当する824.0mmもの記録的な大雨が降ったため大規模な土砂災害が発生し、多くの人的被害が発生した。

上旬：日本の東海上の太平洋高気圧の勢力が平年より強く、また偏西風も平年に比べて北寄りに流れたため、全国的に高温となり、北・東・西日本の旬平均気温は1961年以降で最も高くなった。特に、台風第24号が九州西方から日本海を通過した上旬後半は、南から暖かい風も吹き込み、10月としては観測史上初めて猛暑日を糸魚川（新潟県）で記録するなど、北日本から西日本にかけて厳しい暑さとなった。一方、沖縄付近を北西進した台風第23号や沖縄付近から九州西方に北上した台風第24号の影響で、沖縄・奄美や西日本では降水量が多くなった。

中旬：11～12日は、日本海を通過した低気圧に南から暖かい空気が吹き込んだ影響で、北日本から西日本にかけて気温が高くなった。15～16日は、台風第26号の影響で、北日本から西日本の広い範囲で暴風、大雨となった。中旬後半は、台風から変わった温帯低気圧に吹き込んだ寒気の影響や、大陸からの冷涼な高気圧に覆われた影響で、北日本を中心に気温が低くなった。16日には、北海道の各地で初雪を観測した。20日は日本の南岸を低気圧が通過し、西日本から北日本の広い範囲で雨となった。北日本日本海側と東日本太平洋側の旬降水量は、1961年以降で最も多かった。

下旬：下旬前半は、ゆっくり北上した台風第27号か

らの暖かく湿った気流の影響で、ほぼ全国的に気温が高く、曇りや雨の日が多かった。24～26日は、台風第27号と秋雨前線の影響で東・西日本を中心に大雨となった。それ以降は、一時的な冬の気圧配置の影響や、大陸からの冷涼な高気圧に覆われた影響で、ほぼ全国的に気温は低くなった。このように下旬は台風や秋雨前線の影響で、沖縄・奄美を除いて全般に降水量が多い一方で日照時間は少なく、特に北日本太平洋側の旬間日照時間は、1961年以降で最も少なくなった。

10月の気候統計

月平均気温：北・東・西日本でかなり高く、平年を1℃以上上回った。沖縄・奄美は平年並だった。

月降水量：北・東日本と西日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

月間日照時間：北日本ではかなり少なく、東・西日本で少なかった。沖縄・奄美は平年並だった。

（気象庁観測部情報管理室）

10月の記録（1位更新のみ）

・月平均気温の高い方から（℃）

若松 16.0 長野 16.4 彦根 19.3 など16地点

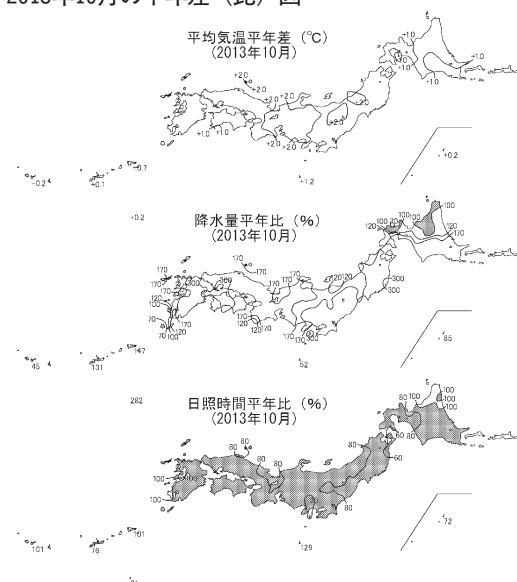
・月降水量の多い方から（mm）

盛岡 252.5 大島 1255.0 萩 277.0

・月間日照時間の少ない方から（時間）

むつ 85.8

2013年10月の年差（比）図



注）陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。